

I—1 校歌・校章

● 東陵小学校校章（昭和49年制定）



（荒井徹廣さんの原案を一部修正）

由来：何よりも自然に囲まれた明朗な学校ということに重点をおきました。中央の十字は丘を表し広く輝きを。そして、まわりは緑に囲まれた小松の松を入れて、みんなで手をつなぎ平和の和を示しています。

● 東陵小学校校歌（昭和53年制定）

作詞 小林 一之 作曲 近藤 幹雄

東陵のうた

白山のけだかさ	ここに集め
今日もめざす	ひとすじの道
肩をよせ 心 ひらき	ひき出せ力
梯の川のゆたかさ	ここに響き
東陵の子に明日もつづく	ひとすじの道

願い：この「東陵のうた」には、現象的な学校の歴史の長さをこえたものをうたいこんであります。それは、まず、人間をとりまく人間を長く育てあげた、また育てあげるであろう「自然の歴史」なのです。それが、「白山のけだかさ」であり、「梯川のゆたかさ」なのです。日本人は自然の中に美を、自分の生き方を、人間というものをみつけようと思いました。自然を征服するのではなく、自然を生かし、自然とともに生き、一体となってきました。その姿、心はいつまでも残したいものです。それが、「ここに集め」「ここに響き」なのです。たんなる場所ではありません。失ってはいけない心なのです。だから、大きな深い永い歴史が、祖先の血とともに子どもたちの中に脈うっている、「ひとすじの道」なのです。先人の残した尊い文化をめざすのです。そして、それはさらに明日へ続く「ひとすじの道」創造の道なのです。これからも歴史の中の一コマとして、学び続ける子どもの姿、それが「肩よせ、心、ひらき」なのです。そして、可能性に満ち満ちた東陵っ子は、その力を引き出すのです。いつまでも、どこまでも。——